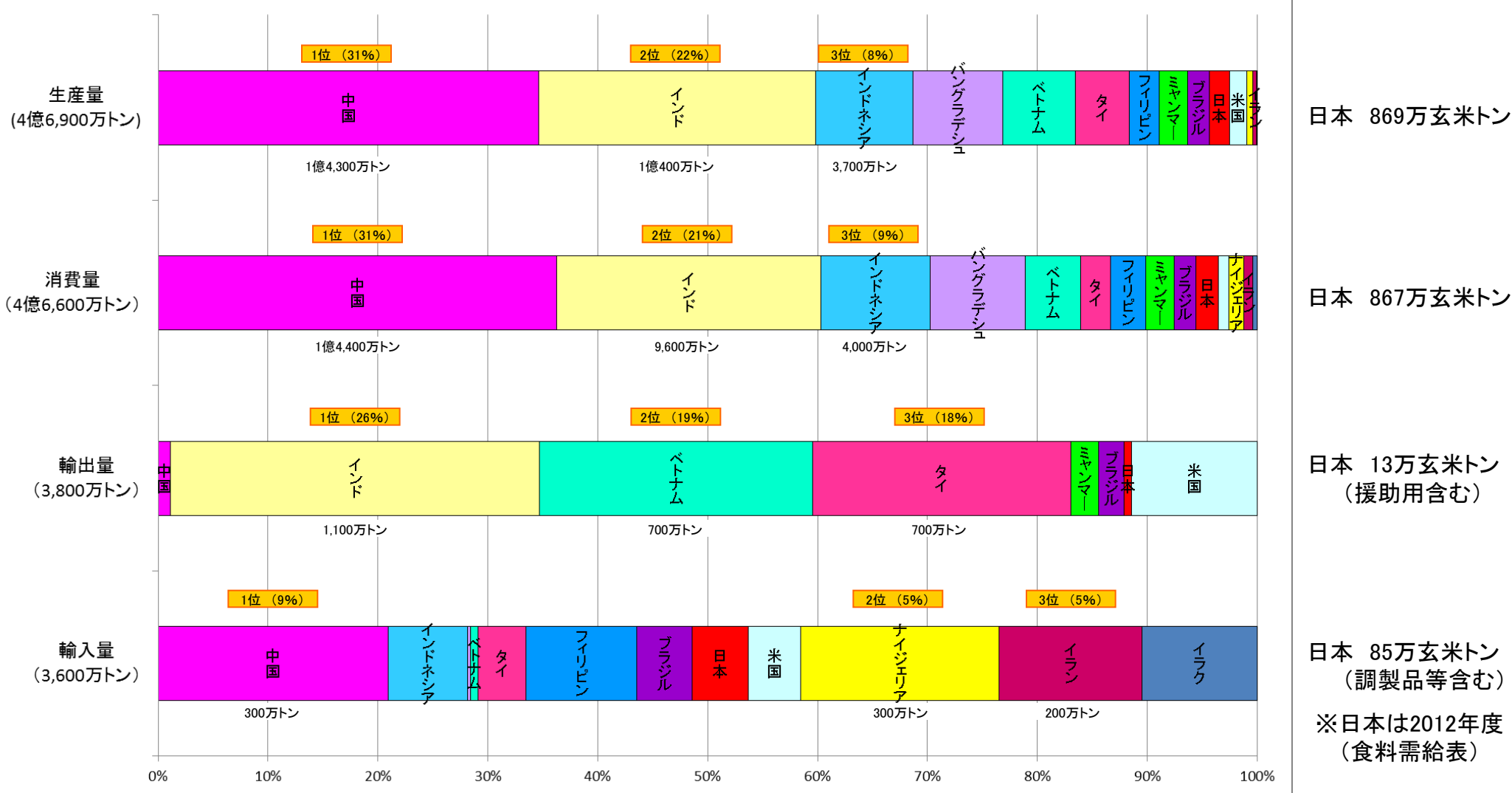


# (参考1) 世界の米需給の現状(主要生産国、輸出国等)

- 世界の米生産量は4.7億精米トン(うち日本は2%)。第1位は中国(1.4億トン)で全体の31%を占める。
- 世界の米の輸出量は、4千万精米トン。このうち、第1位はインドで全体の26%を占め、ベトナム、タイと続いている。



出典: 「PS&D」(米国農務省)(2012/13年度、精米ベース) (2014年1月時点)

# (参考2) 米輸出国の動向

- 米の生産に占める貿易の割合(貿易率)は、他の農産物に比べて低く、このため、国際価格は変動しやすい。
- 我が国は、輸出大国であるタイや、米国、豪州、中国等からミニマムアクセス米として毎年77万トンを入力。

**中国**

- ・ 世界最大のコメ生産国。短粒種だけで、我が国の約6倍の生産量があるとみられる。一方、輸入量も増加しており、2012/13年度は世界第一位のコメ輸入国となった。
- ・ 現在、日本向けは東北3省の短粒種が中心。日系企業の投資等により品質向上。

**タイ**

- ・ 長年、世界第1位のコメ輸出国だったが、近年はインド、ベトナムに抜かれ第3位。
- ・ 日本向けにも長粒種を輸出。

**ベトナム**

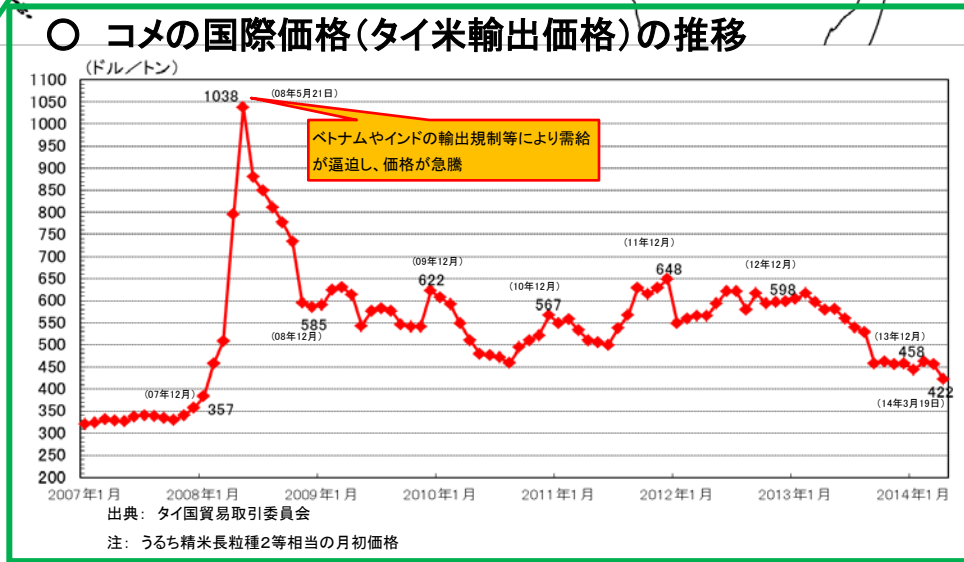
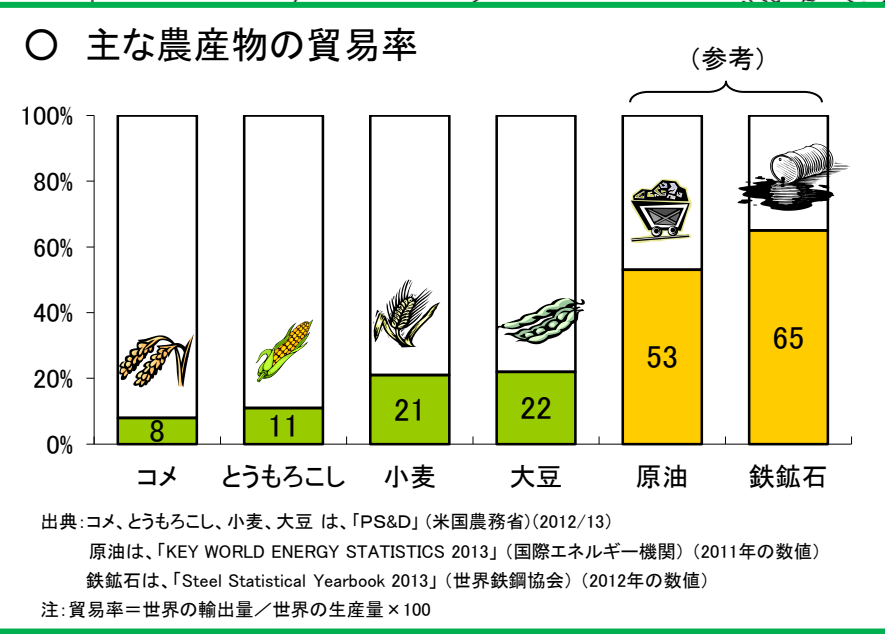
- ・ 世界第2位のコメ輸出国。価格はタイより安い。
- ・ 日本向けの輸出実績あり。

**米国**

- ・ コメは、南部の一部とカリフォルニアで生産。
- ・ 大規模経営による商業的農業。国内消費が少なく、輸出に関心(生産の約半分を輸出)。
- ・ 現在、日本向けはカリフォルニアの短・中粒種。

**豪州**

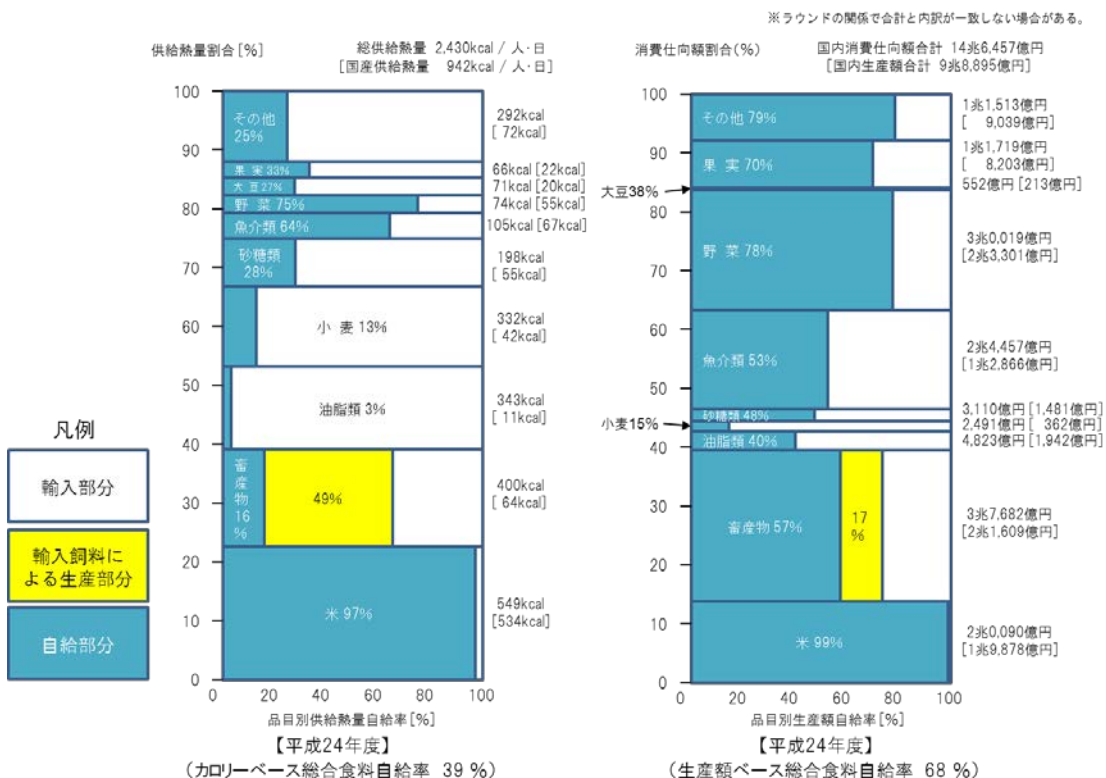
- ・ 主に中粒種を生産し、日本にも輸出。
- ・ 生産量は、大旱魃(2006年)で大きく減少したが、近年回復。



# (参考3) 我が国におけるコメ

- コメの国内生産(稲作と水田)は、我が国の食料安全保障、食生活、農業・農村、国土・環境などに不可欠のもの。日本人の歴史・文化とも密接な関係。
- 一方、日本のコメ消費量が減少する中で、コメの需給調整を実施。

## ○ 我が国の食料自給率(平成24年度)



農産物市場の開放と食料の輸入依存が進む中で、コメの100%近い自給は、先進国の中で最低レベルである我が国の食料自給率を支える、食料安全保障の要。(国産供給熱量(カロリー)の57%、国内生産額の20%がコメ。)

## ○ 我が国におけるコメの重要性

- ・ 国民の主食であり、食文化の基礎  
 [国産米は品質も高く、日本人の嗜好に最適。ご飯、おむすび、寿司などの他、もち、和菓子(例、団子、白玉)、米菓(例、せんべい、あられ)、日本酒などの原材料。祝事や年中行事には赤飯、鏡餅、柏餅など。]
- ・ 農業生産・農村経済の中核  
 [農業生産額の2割がコメ。全耕作地の半分以上が水田。全販売農家の7割が稲作。]
- ・ 稲作や水田の有する多面的機能  
 [国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料などの供給の機能以外の多面にわたる機能のこと(食料・農業・農村基本法第3条。)]
- ・ 日本人の歴史や文化と密接な関係  
 [稲作の始まりにより社会(ムラ)・国家(クニ)が成立。江戸時代の各藩はコメの生産量で表され(石高制)、税もコメ(年貢)。豊作への感謝と祈りが、祭りの起源。稲作での共同作業は、日本の組織文化の基礎。]

## ○ 我が国におけるコメ需給の変化

- ・ 一人当たり年間コメ消費量(精米):  
 118kg(S37(ピーク時)) → 56.3kg(H24)
- ・ コメの需要量(国内消費仕向量)(玄米):  
 1,341万トン(S38(ピーク時)) → 867万トン(H24)
- ・ 国産米の生産量(玄米):  
 1,445万トン(S42(ピーク時)) → 869万トン(H24)

# 51 商業用の米の輸出数量及び輸出金額の推移

- 2013年の輸出数量は3,121トン（対前年比42%増）、輸出金額は約10億3千万円（同42%増）となった。
- 2014年1月の輸出数量は230トン（対前年同期比20%増）、輸出金額は約7千万円（同20%増）となっている。

	2009年		2010年		2011年		2012年		2013年		2014年 (1月)	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	1,312 (+1%)	545 (-15%)	1,898 (+45%)	691 (+27%)	2,129 (+12%)	683 (-1%)	2,202 (+3%)	726 (+6%)	3,121 (+42%)	1,030 (+42%)	230 (+20%)	75 (+20%)
香港	481	206	654	249	779	256	916	299	1,207	377	129 (+87%)	36 (+63%)
シンガポール	185	79	334	126	598	183	668	208	961	300	65 (+3%)	21 (+13%)
オーストラリア	36	10	125	32	157	38	130	34	189	56	11 (-69%)	4 (-60%)
台湾	333	115	271	95	183	66	154	50	168	74	4 (+100%)	3 (+157%)
アメリカ	17	28	39	25	46	24	29	16	91	36	5 (+25%)	4 (+115%)
モンゴル	3	2	3	1	4	1	7	2	73	14	0 -	0 -
イギリス	26	15	36	14	57	17	48	18	58	23	6 (+50%)	3 (+170%)
インドネシア	0	0	0	0	15	3	8	3	57	18	0 -	0 -
ロシア	10	4	52	14	49	13	41	11	55	20	0 -	0 -
ドイツ	7	4	50	14	55	15	50	14	47	14	4 (+100%)	1 (+128%)
中国	30	14	96	43	0	0	34	14	46	19	0 -	0 -
その他	184	67	238	78	186	66	117	57	169	79	6 (-50%)	3 (-64%)

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）

注1：（ ）内は対前年同期増減率である。

注2：「その他」に含まれる国は、2013年についてはタイ、マカオ、フランスなど7ヶ国。

注3：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

# 52 ASEAN+3緊急米備蓄(APTERR)の概要

- 東アジア地域(ASEAN10カ国、日本、中国、韓国)における食料安全保障の強化と貧困の撲滅を目的とし、大規模災害等の緊急時に備えるもの
- 2004年から2010年2月まで「東アジア緊急米備蓄(EAERR)パイロット・プロジェクト」として試験事業を実施
- 2012年7月に、APTERR協定が発効
- 我が国の拠出を活用し、以下の支援を決定
  - ・ 2012年12月、フィリピンの台風に対して、現金備蓄支援(20万ドル・230トン)
  - ・ 2013年10月、ラオスの干ばつ等に対して、現物備蓄支援(13万ドル・177トン)
  - ・ 2013年11月、フィリピンの台風に対して、現物備蓄支援(50万ドル・600トン)(実施中)
  - ・ 2014年1月、ラオスの洪水に対して、現物備蓄支援(17万ドル・223トン)

